

慶大が記者クラブ分科会賞

慶大がアマチュア野球分科会表彰で分科会賞を受賞した。表彰を受ける堀井監督

東京運動記者クラブ・アマチュア野球分科会は24日、今年の表彰を行った。

分科会賞は、慶大に贈られた。東京6大学春秋リーグ戦連覇と全日本大学選手権優勝を達成。明治神宮大会は準優勝で、大学4冠はあと1歩で逃したが、年間を通じて好成績を残した。堀井哲也監督(59)は「どう今後、いただいた賞に恥じない野球を、慶大の野球部として積み重ねていけるかということ。この受賞を励みにもするし、ステップにもしていきたい」と話した。

21年10月31日 慶大対早大 優勝し胸
上げされる慶大・堀井監督(撮影・野上伸悟)

特別賞は、東京ガスと帝京・前田三夫名誉監督(72)に贈られた。東京ガスは、都市対抗野球大会で創部94年目にして初優勝。社会人野球の活性化に寄与した。山口太輔監督(44)は「苦しい戦いの方が多かったですけど、初優勝、黒獅子旗を取ることができて選手もスタッフもそうですが、勝って皆さんが喜んでいる姿を見られてうれしく思います」と話した。帝京・前田名誉監督は今夏限りで勇退。50年にわたる指導で、甲子園春夏通算3度優勝するなど、高校球界の発展に大きく貢献した。「報道関係の皆さんの力がないと高校野球は盛り上がらない。今、振り返ってみると、これだけの高校野球の発展につながったというのは報道関係の力添えがあったからこそと思いますよ。そういう意味では、反対に私の方が感謝をしなきゃいけない」と話した。



日刊スポーツ 慶大146キロ左腕

増居翔太プロ志望明言

2022年1月8日

東京6大学野球の慶大は8日、横浜市内のグラウンドで始動した。

最速146キロ左腕の増居翔太投手(3年=彦根東)は、プロ志望を明言した。年末年始に滋賀県



彦根市の実家に帰省。「両親に、プロを目指してやると言いました。今まであんまり言っていなかったの、びっくりしていました」と明かした。両親からは「悔いのないように」と言葉をもらったという。勝負の1年に向けて「**春に5勝**はできるようにしたい。投手として勝利に貢献できるように取り組むことが、プロにもつながると思う。足元を見て頑張りたい」と話した。

福井章吾前主将、ソフトバンクから2位指名を受けた正木智也外野手ら主力の4年生が抜ける。下山悠介主将(3年=慶応)は、初詣に行き「いいチームをつくって、最後に全員で喜べるように」と願った。

先輩からは「まねをしようとせずに、**自分たちの色**を出してほしい」とアドバイスもらった。「去年のチームが大好きだったのでまねをしたくなるけど、全部まねをするとダメだと思う。1歩ずつ成長していきたい」と話した。**プロ志望を明言した慶大・増居(撮影・保坂恭子)**

昨年12月から就任した中根慎一郎助監督(37)は「外からチームを見ていた人間として、貢献出来たらと思う。**先発完投**できるような投手を育てたい」と意気込んだ。慶大OBで、2年秋にはリーグ戦優勝。卒業後は三菱重工名古屋で8年間プレーし、現役引退後は社業に専念していた。

慶大・下山悠介、神宮決勝の悔しさバネに

日刊スポーツ 「主将」「プロ」両立目指す

2021年12月20日

練習後、笑顔で写真撮影に応じた慶大・下山悠介主将(撮影・阿部泰斉)

悔しさをバネに、目標のプロ入りをかなえる。東京6大学野球の慶大は20日、年内最後の練習を終えた。新チームで主将を務める下山悠介内野手(3年=慶応)には「あの打席は一生忘れられない」と振り返る、1カ月前の打席があった。

年間4冠(春、秋リーグ戦、大学選手権、明治神宮大会)達成に王手をかけた、明治神宮大会決勝戦。8-9と1点ビハインドで迎えた9回2死一、三塁。一打逆転の場面だったが定位置横の右飛に倒れ、旧チーム最後の打者に終わった。

慶大・下山悠介主将(左)と生井惇己投手(撮影・同)

だからこそ、次は外野の頭を越す打球を。1年春からメンバー入りする下山は「3年間の経験で、ミートする打撃は確立できたかなど。力強い打球を打つために、スイングスピードを速くしたいです」と、この冬は**パンチ力**を高める。現時点でスイングスピードは143キロ。振り込



みやフィジカル面の強化で、最終的には150キロ越えを目指す。

ラストイヤーは「主将」と「プロ入り」の両立に挑む。「行動や姿勢でチームを引っ張っていきたいです。プロを目指していますし、両方全うしたいです」と力を込めた。堀井哲也監督(59)は新主将を「(過去の主将たちも)練習量はすごいけど、さらに上に行く」と一目置く。背中で語る男が、チームをけん引していく。

日刊スポーツ 慶大主砲栗林泰三

2021年12月11日

「目線」変え2安打1本塁打 <オープン戦:慶大9-3 横浜商大>

「確率を上げるよう意識」 ◇11日◇慶大グラウンド

5回表慶大 1死、右中間に本塁打を放つ栗林泰三内野手、4打数2安打1本塁打の活躍をみせた(撮影・阿部泰斉)

逆方向にたたき込んだ。慶大の栗林泰三内野手(2年=桐蔭学園)が、今年最後の実戦で2安打1本塁打の活躍をみせた。

「目線」へのこだわりが成果を生んだ。打席内での「ブン」というスイング音が、ベンチ奥の観客席まで届くパワフルさを持つ右打者。それゆえに打席内では右肩が下がるクセがあり、ボールを捉える瞬間に目線が斜めになってしまうことが多かった。

練習で平行にボールを見ることを心掛けたところ、この試合の1発につながったという。「最



近は芯に当てれば飛ぶということが分かったので、確率をとにかく上げるように意識しています」と、落ち着いた口調で話した。

そんな主砲候補の目標は、「**チームにフィット**する選手」だ。試合では持ち味の長打を狙うのではなく、状況に応じた打撃が出来る選手になりたいという。「大学野球は『進塁打』や『三振しないと』の積み重ねが勝利につながると、リーグ戦を外から見ていて感じました。自分本位だと試合に出られないと気付いたので、意識を変えています」と丁寧な話した。【阿部泰斉】慶大・栗林泰三内野手

日刊スポーツ 慶大・清原ジュニアOP戦2安打

「どんどん食い込んできて」堀井監督 12月11日

<オープン戦:慶大9-3 横浜商大>◇11日◇慶大グラウンド

慶大対横浜商大 4打数2安打の活躍をみせた慶大・清原正吾内野手(撮影・阿部泰斉)

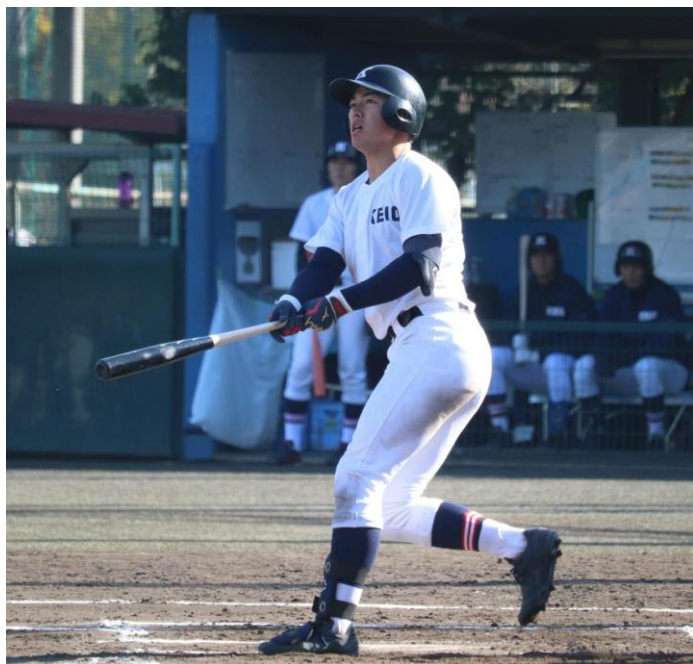
慶大が今年最後の実戦を白星で飾った。年間3冠(春、秋リーグ戦、大学選手権)を果たした4

年生が11月で引退。新チーム2戦目を迎えたこの日は打線が爆発し、18安打で9得点を奪った。

クリーンアップがそれぞれ2安打と結果を残した。3番山本晃大外野手(3年=浦和学院)、4番栗林泰三内野手(2年=桐蔭学園)は本塁打でチームを勢いづけた。5番清原正吾内野手

(1年=慶応)は、2回無死からの第1打席で右中間へ三塁打を放った。清原はその後、第2打席は投手失策で出塁、第3打席は5回1死から中前打、第4打席は無死満塁から遊ゴロに倒れた。4打数2安打の内容だった。強打者の後を狙う。ソフトバンク2位指名の正木智也内野手(4年=慶応)が守っていた一塁の枠が空いた。堀井哲也監督(59)は「山本は外野で3番を打って欲しい。栗林はファーストで正木の後

ですよね。これを清原と2人で争ってくれば」と話した。他のポジション争いも熾烈(しれつ)を極める。この日は合計28人の選手が起用された。堀井監督は「4人のレギュラーが残って、センター、ライト、ファート、キャッチャーが抜けました。めどはまだ立っていない。どんどん食い込んで欲しい」と、一冬越えての成長に期待を込めた。



慶大助監督の竹内大助氏 12月31日付退任 後任にOB中根慎一郎氏



トした。

慶大・竹内大助助監督(2020年10月3日撮影)

2021年12月9日

東京6大学野球の慶大は9日、助監督の竹内大助氏が、12月31日付で退任することを発表した。なお、後任として12月1日よりOBの中根慎一郎氏が就任。現在は引き継ぎも含め、2人そろって練習に参加している。

中根氏は、中京大中京から慶大進学。在学中は投手として1年秋からリーグ戦に出場。主にリリーフとして活躍。2年秋にはリーグ戦優勝を果たした。卒業後は三菱重工名古屋に入社し、07年日本選手権準優勝に貢献。優秀選手賞を受賞した。中根氏は野球部ホームページを通じ「竹内助監督の功績を受け継ぎ、堀井監督とともに本塾野球部と学生野球の発展のため、粉骨砕身の覚悟でまい進いたす所存です」とコメン